

各分野における平成29年度の取組実績について

- 1 農業分野 1～3ページ
- 2 林業分野 4～5ページ
- 3 水産業分野 6～7ページ
- 4 商工業分野 8～10ページ
- 5 観光分野 11～14ページ
- 6 住宅分野 15～17ページ

「数値目標等に対する客観的評価」の方法 (H29 年度)

- ・達成状況を客観的に評価できる目標について、以下により **3 段階評価** を実施

区 分	評 価 基 準	
A	平成 29 年度の数値目標と実績値を比べて、 数値を改善もしくは維持できたもの、 または状況を改善できたもの	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標を達成したもの → 数値目標の達成率が <u>100%以上</u> ・数値目標ではないが客観的評価ができる目標を達成したもの
B		<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標をほぼ達成したも → 数値目標の達成率が <u>60%以上 100%未満</u>
C		<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの → 数値目標の達成率が <u>60%未満</u>

平成29年度の取組実績【農業分野】

(取組の総評)

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価(H29)	目標値(H31年度末)
新規就農者数	12人	7人(※)	C	15人/年

農業部会の目標の骨子である、新規就農者数は12名の目標に対し7人でありC判定となっている。就農相談は目標件数以上あったが、相談時は県外在住であったり、将来的に農業をしようと考えている方、家庭菜園程度の考え方をお持ちの方等も多く、就農までには至らないケースが多くあった。

※Uターン:4人、Iターン:3人(すいか/みかん/ピーマン/ニラ/人参・ブロッコリー・スナップエンドウ/生姜/オクラ)

※ H28年度 14人

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値(平成29年度)	実績値(平成29年度末)	数値目標に対する客観的評価	原因及び課題(分析)	
基盤整備・防災	◆農業生産基盤の充実(県防災減災事業)					
	1.防災施設対策整備	○黒谷ため池(測量設計)1箇所	○黒谷ため池(測量設計)着手済	A	県営事業により地元関係者との協議を行いながら測量設計業務を順調に進めることが出来た。	平成30年度についても事業主体である県と実施調整を密に行いながら工事完了を目指す。
	2.排水機場施設整備	○吉原排水機場(ポンプ及び電気工事)1箇所	○吉原排水機場(ポンプ及び電気工事)着手済	A	県営防災関連事業を重点に行っており本年度の事業費割り当ても縮小傾向のため一部完了となる。	平成30年度についても事業主体である県と実施調整を密に行いながら工事完了を目指す。
	3.地域農業水利施設事業	○烏川統合堰(改修工事)、総合堰(測量設計)計2箇所	○烏川2箇所中1箇所総合堰は測量設計を3月完了。統合堰についても29年度工事発注済であるが付帯工事と併せて30年度に繰越し実施。	B	平成29年度内の補助事業の採択が大変厳しい状況であったため一部未実施。平成30年度に残事業の早期着手を図る。	補助事業の採択が大変厳しい状況であるが、平成30年度の補助割当てに向けて今後も県との連携を図り、実施に向け取り組む。
	4.農業水利施設保全合理化事業	○物部川統合堰(機能診断調査)香南地区	○機能診断調査業務を12月完了	A	平成26年度から4年計画で実施し、平成29年度に完了。	調査による修繕計画に沿って、今後関係3市と協議し、改修工事を主導的にサポートしていく。
	5.農業基盤整備促進事業(頭首工)	○曾我井堰、烏川1号堰、烏川3号堰(測量設計)計3箇所	○頭首工3件共に29年度未採択	C	当初予定していた補助事業の採択が大変難しく未実施となった。	毎年、管理計画の見直しにより県と協議を行い、採択可能な補助事業について予算要望を行い、早期実施に向けて取り組んでいく。
	6.土地改良施設維持管理適正化事業	○西部排水機場除塵機修繕1箇所	○西部排水機場除塵機修繕3月竣工	A	順調に進めることが出来た。	地元との協議・調整を今後も行い、要望箇所の早期竣工に向け取り組んでいく。
	7.工業用水道整備事業(水路・道路等整備)	○水路2件(東中筋6水路・西中筋7水路)と道路1件(ナ丸1号線道路) ○水路測量設計1件(中組南18水路)	○予定の水路2件、道路1件を実施済 ○水路測定1件を実施済	A	当初予算からの設計変更や地元協議での施工対応等から、予定箇所完成が困難であった。	地元との協議・調整を今後も行い、要望箇所の早期竣工に向け取り組んでいく。
	8.農業集落排水整備(上岡地区集落道改良工事)	○16水路・17水路計2件	○水路2件については工事完成。	A	集落環境整備事業に伴う代表者と実施箇所の検討協議を行いながら早期竣工に向け計画的に進めた。	代表者と地元調整を行いながら要望箇所の早期竣工に向け取り組んでいく。
	◆防災への対策					
1.農村地域防災減災事業(避難タワーの県事業負担金)	○吉川地区避難タワー工事1件	○吉川地区避難タワー工事を1箇所発注済であるが、遺跡調査等不測の日数により30年度繰越しとする	B	県営防災関連事業を重点に行っており、平成29年度の事業費で実施しているが、平成29年度遺跡調査等に不測の日数を要したため、平成30年度繰越し施工にて竣工予定となった。	県と連携し、計画等を協議しながら、早期完成に向けて進めていく。	
2.重油流出防止付装置燃料タンク整備事業(重油タンクの流出防止対策)	○タンク整備21基	○ヒートポンプ 2基 燃料タンク 6基 防油堤 9基 計 17基	B	防油堤とタンクが単独で施工できるようにはなったが、個人負担による資金難から、目標値に届かなかった。	平常時の燃料漏れ対策や、南海大地震に備えた施設の重要性をPRし推進していく。	

平成29年度の取組実績【農業分野】

(取組の総評)

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価(H29)	目標値(H31年度末)
新規就農者数	12人	7人(※)	C	15人/年

農業部会の目標の骨子である、新規就農者数は12名の目標に対し7人でありC判定となっている。就農相談は目標件数以上あったが、相談時は県外在住であったり、将来的に農業をしようと考えている方、家庭菜園程度の考え方をお持ちの方等も多く、就農までには至らないケースが多くあった。

※Uターン:4人、Iターン:3人(すいか/みかん/ピーマン/ニラ/人参・ブロッコリー・スナップエンドウ/生姜/オクラ)

※ H28年度 14人

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値(平成29年度)	実績値(平成29年度末)	数値目標に対する客観的評価	原因及び課題(分析)	
経営改善・担い手	◆担い手対策の促進					
	1.担い手育成センター研修支援事業	○担い手育成センター研修費補助 10人支給	○担い手育成センター研修費補助 4人支給	C	3人が研修を終了し、親元で研修を実施した。また1人は先進農家へ研修に入った。就農にむけたイベントに関係機関と共に参加するなど周知は行ってきたが、申請者は少なかった。	これまで取り組んできた広報等での周知を継続し、将来的な就農者の確保も視野に新規就農者の育成を図る。
	2.新規就農推進事業	○親元就農応援区分 3人 ○専業農家育成区分 4人	○親元就農応援区分 4月から2人、8月から1人が研修開始。(3/3) ○専業農家育成区分 3月から1人が研修開始。(1/4)	親元 A 専業 C	新規就農についての周知の取組から相談件数は伸びており、親元就農応援区分については、目標人数を達成した。しかし、将来的な就農を検討している方や年齢等の余条件により就農とならない方の相談も多く、専業農家育成区分は目標値に届かなかった。	平成30年度より、2人が親元での研修を終了し独立自営を開始する。これまで取り組んできた、東京や大阪で開かれる県主催の「新農業人フェア」、「高知農に就くフェア」等への参加に加え、平成30年度は高知市のイオンモールでもPR活動を行い、周知拡大に取り組んでいく。
	3.農業次世代人材投資事業	○経営開始型 8人支給	○経営開始型 16人支給	A	順調に推移し達成している。	経営の不安定な者に対し、関係機関と協力し、サポートを行っていく。
	4.農業後継者推進事業	○農業後継者 15人支給	○農業後継者 13人支給	B	おおむね順調に推移しているが、課題として新たな就農者が1人にとどまっている。	今後も各フェアの参加や広報等で周知を継続し、農業後継者の確保を図る。
	5.実践型研修ハウス整備事業	○ハウス面積 30a	○ハウス面積 0a (地権者説明会を行い調整中)	C	当初予定していた用地買収が困難となり、賃貸借で行うこととなったため未実施。	賃貸借契約を速やかに行い、建設スケジュールに遅れのないように進める。
	◆経営の改善への対応					
	1.園芸用ハウス整備事業	○中古・新規ハウス整備件数 15件	○中古ハウス 3件完成 ○新規ハウス 10件完成	B	おおむね順調に推移しており、前年より4件の事業活用者が増加。(H28年度:中古ハウス3件、新規ハウス6件計9件)	新規就農者に対しての補助率を向上させ、より多くの方に活用してもらえるように変更した。
	2.経営所得安定対策推進事業	○利用件数 1,000件	○利用件数 1,117件	A	再生協議会と協力し、各地域での交付金受付事務等を実施。	交付金受付事務等を行い、引き続き、農業者の経営補助を行っていく。
	3.農地中間管理事業	○利用件数 5件	○利用件数 4件	B	農業委員会・農業公社の本事業紹介・案内協力もあって、概ね目標値を達成したが、余条件により就農とならない方の相談もあり、目標値に届かなかった。	担当課・農業委員会・農業公社間で連携をとり、事業利用者の増加を図っていく。
4.環境制御技術導入普及促進事業	○利用件数 26件	○利用件数 27件	A	順調に推移している。	平成26年度から5年間の期限付きの事業のため平成30年度が最終年度となるが、引き続き県への要望を行っていく。	

平成29年度の取組実績【農業分野】

(取組の総評)

農業部会の目標の骨子である、新規就農者数は12名の目標に対し7人でありC判定となっている。就農相談は目標件数以上あったが、相談時は県外在住であったり、将来的に農業をしようと考えている方、家庭菜園程度の考え方をお持ちの方等も多く、就農までには至らないケースが多くあった。

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価(H29)	目標値(H31年度末)
新規就農者数	12人	7人(※)	C	15人/年

※Uターン:4人、Iターン:3人(すいか/みかん/ピーマン/ニラ/人参・ブロッコリー・スナップエンドウ/生姜/オクラ)

※ H28年度 14人

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値(平成29年度)	実績値(平成29年度末)	数値目標に対する客観的評価	原因及び課題(分析)	
経営改善・担い手	5.産地パワーアップ事業	○利用件数 ハウス 5棟 そぐり機 15機	○利用件数 ハウス 5棟 そぐり機 20機	A	順調に推移している。	平成30年度で補助事業が終了となるが、引き続き県への要望を行っていく。
	◆農作物のブランド化の推進と加工品の開発					
	1.農山漁村振興交付金事業 (6次産業化の取組によるビジネスづくり)	○商品開発数 1件	○商品開発数 5件 (山北みかんバター、山北みかんかき氷、山北みかんジュース、山北せとかジュース、山北せとかゼリー) ○販売開始数 2件 (山北みかんバター、山北みかんかき氷)	A	事業を順調に進めることができ、商品開発5件のうち、2件は販売を開始することができた。	H30.8までに販売団体の生産・外商・運営体制を確立し、販売数の増加に繋げて行く。
	◆消費者の安全安心志向への対応					
中山間	1.地産地消推進協議会補助事業	○市内野菜の使用率 37%	○市内野菜の使用率 約30%(推定値)	B	事業を順調に進めることができたが、野菜の高騰により、地元産食材の使用率が目標値を下回っている。	価格に影響されることなく、納品できる体制の構築の検討を進め、目標の達成を目指す。
	2.信頼される産地づくり支援事業	○利用件数 147検体	○利用件数 147検体	A	事業を順調に進めることができたため、引き続き目標を達成できるようにしていく。	引き続き支援事業を行い安全・安心な農産物づくりに取り組んでいく。
	◆農地の保全と活用の促進					
	1.中山間地域等直接支払事業	○組織数 11組織	○組織数 11組織	A	事業を順調に進めることができた。協定数は増えていないが、対象農地面積を増加させることができた。	H30.5末までに、協定数及び対象農地面積の増加に向けて、広報周知活動と地元説明会を開催していく。
中山間	2.多面的機能支払事業	○組織数 10組織	○組織数 10組織	A	組織数に変更無し。今後も活動組織と連携し、事業を進める。	広報等利用し制度の周知を図り、組織の増加を図る
	◆有害鳥獣被害対策					
	1.鳥獣被害対策実施隊	○捕獲数 イノシシ220頭 シカ150頭 カラス・カワウ他 500羽	○捕獲数 イノシシ 217頭 シカ 210頭 タヌキ他 255匹 カラス他 60羽	B	イノシシ・シカ等獣類については、概ね目標値を達成できたが、カラス等鳥類については、駆除を行う者が少ないため、目標値に達しなかった。	被害対策協議会等各地区の狩猟代表者が集まる場において、鳥類駆除への協力を要望し、捕獲数増加・目標値達成を目指していく。
2.有害鳥獣被害防止事業	○防止柵延長 10,000m	○防止柵延長 9,026m (9,026mの実施で達成)	A	土佐香美農業協同組合による案内等各関係機関の協力で、農家等多数の住民が本事業を活用し、鳥獣被害防止に貢献できた。	今後も、窓口等での案内や広報掲載等で本事業の周知を図り、事業を進めていく。	

平成29年度の取組実績【林業分野】

数値目標	目標値 (H29)	実績値 (H29)	全体の評価	目標値 (H31年度末)
森林境界明確化面積	150ha	0ha	C	600ha/累計
	H28年度 0ha			H29年度までの累計 285ha

(取組の総評)

平成29年度の取組実績について確認を行い、森林境界明確化が目標値150haに対して、実績値は0haであったため評価はCとした。
この取組は地権者の立会が必要となるが、地権者が不明だったり、接触が難しい現状等もあり、関係機関との協議の結果、平成29年度内の事業採択が難しいと判断したため0haとなった。

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績 (成果等)		総括		今後の取組 (対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度)	実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する客観的評価	原因及び課題 (分析)	
基盤整備	◆林業生産基盤の充実 ①畑山・奥西川線擁壁復旧工事 ②畑山・奥西川線舗装工事 ③畑山・仲木屋線側溝清掃 ④城山・羽尾線 (28災線) (土砂・枯れ草等の除去及び崩壊している箇所等の修繕)	①L=10.0m A=41.7㎡ 完了 ②A=800㎡ 完了 ③L=4,500m 完了 ④L=8.0m A=29㎡ 完了	①L=10.0m A=39.5㎡ 完了 ②A=1,099.2㎡ 完了 ③L=3,380m 完了 ④L=8.0m A=30.9㎡ 完了	A	事業を順調に進めることが出来た。	平成30年度も、引き続き地権者からの要望を踏まえ、維持管理を行っていく。
	◆森林の多面的な利活用の促進 ・緊急間伐総合支援事業 ①切捨間伐 ②保育・搬出間伐 ③作業道整備 ④人工造林+被害防護ネット	①切捨間伐 10ha ②保育・搬出間伐 30ha ③作業道整備 2,800m ④人工造林 3ha 被害防護ネット 1,000m	①切捨間伐 (夜須町羽尾・沢谷) 【23.98ha実施】 ②保育・搬出間伐 (香我美町撫川・舞川、団地化) 搬出間伐22.45ha ③作業道整備 (香我美町撫川・舞川) 【1,247m実施】 ④人工造林 2.71ha 被害防護ネット (香我美町別役) 【887m実施】	B	緊急間伐総合支援事業を実施。ほぼ目標どおり実施しているが、事業実施に伴う地権者との交渉が困難な状況となっており、規模の縮小となった。	関係機関との連携を密に図り、地権者との交渉が実施できるよう調整を図り、取り組んでいく。
森林資源保全	・森林整備地域活動支援事業 ①森林経営計画作成 ②森林所有者境界明確化 ③施業集約化 ④条件整備	①森林経営計画作成 100ha ②森林所有者境界明確化 35ha ③施業集約化 5ha ④条件整備 (作業道の改良) 5ha	①森林経営計画作成 (香我美町舞川) 【98.3ha】 ②森林所有者境界明確化 (夜須町仲木屋) 【未実施】 ③施業集約化 (香我美町奥西川) 【未実施】 ④条件整備 (作業道の改良) (香我美町撫川・舞川・奥西川) 【未実施】	C	森林整備地域活動支援事業のうち、森林経営計画については取り組めた。その他の事業については、地権者の立会が必要となるが、地権者が不明だったり、接触が難しい現状等もあり、関係機関との協議の結果、年度内の事業採択が難しいと判断し未実施。	地権者が明確な部分については、事業を理解してもらうよう説明を行い、同意者を増やし、平成30年度については前年度の分を含め、計画通り実施していく。
	・森林・山村多面的機能発揮対策事業	①本事業の取組に向けた準備・整備	①事業に対する要綱などの整備を実施 ②高知県森と緑の会へ交付	A	事業の取組に向けた整備を行い、事業を順調に進めることができた。	補助事業者である高知県森と緑の会と連携し、事業者を広めていく。

平成29年度の取組実績【林業分野】

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価	目標値(H31年度末)
森林境界明確化面積	150ha	0ha	C	600ha/累計
	H28年度 0ha			H29年度までの累計 285ha

(取組の総評)

平成29年度の取組実績について確認を行い、森林境界明確化が目標値150haに対して、実績値は0haであったため評価はCとした。
この取組は地権者の立会が必要となるが、地権者が不明だったり、接触が難しい現状等もあり、関係機関との協議の結果、平成29年度内の事業採択が難しいと判断したため0haとなった。

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度)	実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
森林資源保全	・林地台帳整備事業	①本事業の取組に向けた準備・整備	①平成30年度から取り組める準備を実施	A	平成30年度から取り組める準備を順調に実施できた。	平成30年度より運用開始する。トラブルがないように進めて行く。
	・水源の森整備事業 ①搬出間伐	①搬出間伐 5ha	①搬出間伐 (香我美町撫川) 【5ha実施】	A	事業を順調に進めることができた。	香美森林組合と平成30年度の要望について協議を図り、引き続き対象地域の事業を実施する。
	・森林整備推進事業(高性能林業機械導入) ①タワーヤーダ ②脱着式コンテナ	①タワーヤーダ 1台 ②脱着式コンテナ 1台	①タワーヤーダ 【完了】 ②脱着式コンテナ 【完了】	A	事業を順調に進めることができた。	平成29年度に導入した高性能林業機械を香美森林組合と連携を図り、活用していく。
木質バイオマス	◆森林の活用 ・木質バイオマスボイラー ・県産材及びCLTの活用	○農業ハウス用ペレットボイラー数 現状維持【H27・2基】	○農業ハウス用ペレットボイラー数 現状維持【H27・2基】	A	問題なく利用が行われているが、今後耐久年数などの問題もあり、利用者との協議が必要と思われる。	バイオマスボイラーを活用した農業の活用例などの話があり、今後、安定して高品質なペレットが供給できるか等の問題が見込まれる。情報収集等を図り、農林部会との連携なども視野に取り組んでいく。

平成29年度の取組実績【水産業分野】

(取組の総評)

代表的な数値目標となる沿岸漁業総生産量1,200トンに対して実績値が839トンとなったことから、全体の評価をBと判定した。
 目標を達成できなかった主な要因としては、平成29年度香南市内水揚量(赤岡・手結・吉川3港合計)の結果から、赤岡316トン・吉川186トン(前年比300%)・手結337トン(前年比64%)であり、シイラの回遊が少なく手結への水揚げが少なかったことが一つの要因として考えられる。
 また、実績のなかった新規漁業就業者確保については、現状の香南市内の漁業形態では単独での就業は厳しい状況である。

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価	目標値(H31年度末)
沿岸漁業総生産量	1,200トン以上維持	839トン	B	1,200トン以上
手結 337t (前年比64%) 赤岡 316t、吉川 186t (共に前年比300%)				
H28年度 693トン				
※ 参考				
H28年度 漁獲高		H29年度 漁獲高		127,980千円増(前年比 177.7%)
164,780千円		292,760千円		

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度末)	実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
改修整備	◆水産機能施設の整備 ・吉川漁具倉庫バードピン等設置工事 ・赤岡水産機能施設荷捌施設防水工事 ・手結支所活魚スペースのフェンス及びグレーチング取替工事 ・赤岡水産機能施設荷捌施設ホイストクレーン設置工事設計業務 ・赤岡水産機能施設荷捌施設排水施設修繕	○老朽化等に伴う各種漁業用施設の改修・整備件数 8件(H26年度からの累計)	○老朽化等に伴う各種漁業用施設の改修・整備件数 5件(うちH30へ繰越1件)(H26年度からの累計24件)	A	・赤岡水産機能施設荷捌施設ホイストクレーン設置工事設計業務については、地盤調査の追加により平成30年度へ繰越して実施中。 ・目標値はH26年度からH29年度までの累計件数で、あくまでも老朽化による改修・整備の予測数値である。実際は平成29年度までの累計は24件で、目標値は達成しているが、要改修・整備等の施設が増加しているのが現状である。	・漁業関係者の意見を基に、設備改修・整備を継続して実施していく。
	◆漁港施設の整備 ・水産物供給基盤機能保全事業 住吉漁港東防波堤保全工事 吉川漁港水域施設機能保全計画策定 ・維持浚渫事業事業 維持浚渫事業測量設計委託業務 維持浚渫工事 ・海岸保全施設長寿命化計画策定 ・県営事業 赤岡漁港3号導流堤保全工事 赤岡漁港浮桟橋設置 河川海岸高潮対策事業 岸本海岸離岸堤 消波ブロック製作・据付	○改修整備率 30%	○改修整備率 25%	B	・施工できず数年来の課題であった住吉漁港東防波堤保全工事は工法再検討により完成したが、事業費が増加したため、計画していた他施設が未施工となった。 未施工箇所は平成30年度に実施予定。 (完成施設 4.5 / 計画施設18 = 25%) ※国補助事業であるため予算配分により整備率は上下することもあるが、老朽化判定においてAランクとされている施設の中でも優先度を決定し事業を実施していく。	・機能保全計画に沿った保全工事の実施。 ・定期点検による変状箇所の確認。 ・県営事業(港湾・漁港・海岸)への要望活動を継続して実施。
経営基盤強化	◆新規漁業就業者の確保 ・新規漁業就業希望者(2年間)の募集	○新規就業者 1名確保	○新規就業者 希望者なし	C	・市内主要漁業形態(シラス漁・シイラ漁)は、1人での漁業就業が難しい状況。	・移住フェアへ参加し、県外からの新規従事者を募る。 ・就業者対策に加えて、民間企業等が行う漁業の担い手の育成について支援していく必要。 ・国や県の新規漁業就業者向け事業を民間の漁業関係会社等に推進し、間接的な推進を図る。
	◆漁場の保全 ・手結地区藻場保全活動 ウニ駆除(7回)、モニタリング(2回) ・赤岡・吉川地区の掃海活動実施に向けた調整	○海藻類育成被度 58%	○海藻類育成被度 52%	B	・食害生物(ウニ)駆除はおおむね実施できたが、食害生物(魚類)駆除及び母藻の設置が調整がつかず実施できなかった。	・小型一年性海藻等は以前より確認されているが、ホンダワラ類の大型海藻の育成のため、母藻設置を継続していく。 ・掃海事業については、夏期の実施に向けて調整する。

平成29年度の実績【水産業分野】

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価	目標値(H31年度末)
沿岸漁業総生産量	1,200トン以上維持	839トン	B	1,200トン以上

手結 337t (前年比64%) 赤岡 316t、吉川 186t (共に前年比300%)

H28年度 693トン

※ 参考

H28年度 漁獲高	H29年度 漁獲高	127,980千円増(前年比 177.7%)
164,780千円	292,760千円	

(取組の総評)

代表的な数値目標となる沿岸漁業総生産量1,200トンに対して実績値が839トンとなったことから、全体の評価をBと判定した。
 目標を達成できなかった主な要因としては、平成29年度香南市内水揚量(赤岡・手結・吉川3港合計)の結果から、赤岡316トン・吉川186トン(前年比300%)・手結337トン(前年比64%)であり、シイラの回遊が少なく手結への水揚げが少なかったことが一つの要因として考えられる。
 また、実績のなかった新規漁業就業者確保については、現状の香南市内の漁業形態では単独での就業は厳しい状況である。

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度末)	実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
経営基盤強化	◆漁業者の所得向上 ・沿岸漁業設備投資促進事業(エンジンリース事業1件)	○沿岸漁業総生産量 1,200t/年 ○沿岸漁業設備投資促進 事業(エンジンリース事業) 1件 ○シラス漁における所得 向上対策の検討	○沿岸漁業総生産量 839t ○沿岸漁業設備投資促進 事業(エンジンリース事業) 1件 ○未実施	C	・総生産量はシラスが好漁であったが、シイラが 例年より減少したため、目標値には届かなかった。 (前年比121%:目標値70%) ・沿岸漁業設備投資促進事業(エンジンリース事 業)については1件実施し、漁業経営の効率化を 促進することができた。 ・シラス漁における所得向上対策の検討につい ては未実施。	・沿岸漁業設備投資促進事業については、県単独 補助事業から、国補助事業へ上乗せ補助を行う方 法へ変更された。自己負担額は減少するが様々 な条件等をクリアする必要があるため、平成31年 度要望に向けて要望者との事前打ち合わせを実 施する。 ・シラス漁における所得向上対策検討に向け、現在 のシラス流通状況等の情報収集を行い、生産から 販売までの過程で必要な対策を掘り起こす。
	◆観光漁業の推進 ・次年度に向けた要望調査を実施(遊漁船) ・観光協会との連携(遊漁船)	○遊漁・観光漁業への 取り組み	○HPのリニューアル (遊漁船)	B	・赤岡遊漁船部会が設立され、HPのリニューアル を実施し、広くPRできるようになった。 ・地曳網が現在休業中であるが、漁業権の関係 で漁協組合員が実施することが絶対条件とな る。	・地元漁協組合員の方が操業していただけるかど うか、漁協関係者との協議・調整を行う。 ・再開に向けて市・漁協等が支援できることの整理 を行う。
生産・加工・流通・販売	◆水産加工品流通販売の推進 ・シイラの学校給食への納入 ・シラスの学校給食納入について調査 ・水産業の学習(野市小、7/1.11/8.11/10) ・釜揚げ体験・食育学習(赤岡世代間交流、11/11)	○学校給食への加工品の 納入回数 11回	○学校給食への加工品の 納入回数 23回(シイラ) ○手結支所販売額 44,264千円 ○シラスの学校給食納入へ の事前調査	B	・学校給食へのシイラ納入回数の増加及び手結 支所加工販売額は順調に伸びているが、地元産 シラスの学校給食納入には至っていない。	・シラス納入について、平成29年度より給食セン ター等に聞き取りを実施し、各種条件等の整理を 実施。 今後は納入に向けた加工業者との協議(意向調査 等)を実施し、納入への動きを加速させていく。

平成29年度の取組実績【商工業分野】

数値目標	目標値 (H29)	実績値 (H29)	全体の評価	目標値 (H31年度末)
製造品出荷額等	500億円以上	371億円※H28	B	500億円以上

H28年度 391億円 ※H27

(取組の総評)

目標値(製造品出荷額等)500億円に対し、実績値は371億円であったことから、取組評価はBとした。
 工業分野の戦略の柱となる「ものづくり基盤整備」については目標値を達成できたが、ルネサス高知工場の事業継承先の確保は依然厳しい状況である。また、「ものづくり」については、支援事業の利用実績が少ない等、目標値に達していない取組が多く、課題を残すこととなった。
 商業分野においては空き店舗の問題、事業継承者不足による廃業の増加が大きな要因であったことから、商工会内の「事業継承・空き店舗対応の調査研究にかかる委員会」主導のもと、先行して赤岡地区の空き店舗情報を収集したが、居住兼店舗である空き店舗が多いことや、浸水地区のため需要がないなどの問題があり、商業希望者に提供できる物件が集まらなかったなどの課題が浮き彫りとなっている。

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度)	実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
ものづくりの 基盤整備	◆香南工業団地整備事業 ・YAMAKIN(株)…3/31工場竣工、8/28操業開始 ・(株)泉井鉄工所…7/31工場竣工、12/21事業開始 ・みすまる加工(株)…3/5分譲決定変更通知(※9/22に親会社であるみすまる産業(株)に分譲決定通知後、100%出資する新会社のみすまる加工(株)が分譲先企業となる。	○残り1区画(A区画)の早期完売を目指す	○分譲決定 みすまる加工株式会社	A	・県企業立地課と連携して分譲交渉を行い、A区画に企業誘致することができた。	・団地内及び周辺環境整備や適切な維持管理に努める。 ・1号調整池、2号貯水池の浚渫 ・防犯灯の設置 ・企業案内看板の設置
	◆香南工業団地企業立地促進事業 ・YAMAKIN(株)会社説明会、面接会の開催…6/23~24開催 2日間で42名の参加(市HP及び市広報紙への掲載、香南CATVへのテロップ放送) ・YAMAKIN(株)会社説明会、面接会の開催…9/15~16開催 2日間で5名の参加(市HP及び市広報紙への掲載、香南CATVへのテロップ放送) ・大三(株)従業員募集のチラシ作成(市HP及び市広報紙への掲載) 3名を雇用(内香南市在住3名)	○立地企業への雇用促進及び産業の活性化を図る	○補助金24,267千円を交付 (YAMAKIN(株)) ○補助金10,702千円を交付 (株)泉井鉄工所)	A	・立地企業と県、市が連携して雇用促進を図り、新工場に係る新規採用者のうち、半数以上を地元雇用者とする事ができた。 YAMAKIN(株):15名雇用のうち、地元雇用者10名 (株)泉井鉄工所:4名雇用のうち、地元雇用者2名	・今後、操業開始を予定している立地企業と連携し、会社説明会や面接会を実施する等、積極的な地元雇用を図る。
	◆ルネサス高知工場及び川谷刈谷工場用地 ・ルネサス社プロジェクトチームとの協議2回(5/24、12/1) ・ルネサス社(東京本社)との協議5回(7/13、9/25、10/20、12/4、2/15) ・ルネサス高知工場雇用対策連絡会議への出席(12/19、3/13) ・高知県企業立地セミナーin大阪(8/28)への参加…2名 ・川谷刈谷工場用地の草刈を実施 (高知県分9/13完了、香南市分10/25完了) ・ルネサス関連企業訪問2回(11/22、12/6)	○ルネサス従業員の雇用確保及び事業承継先の確保 ○川谷刈谷工場用地への企業誘致	○ルネサス社との協議(7回) ○ルネサス関連企業訪問(2回) ○H28.11/7川谷刈谷工場用地の分譲を開始	C	・ルネサス社との協議を通して、ルネサス社においては銀行や証券会社等の様々なルートを通じたアプローチ先の掘り起こしや現地視察の受け入れをするなど、承継先の確保に精力的に取り組んでいることを確認 ・川谷刈谷工場用地の分譲に関しては、ルネサス高知工場の従業員の雇用の維持、継続も視野に入れて活用することが和解契約にも明記されていることから、今後、承継先の確保とそれに伴う、従業員の動向も見極めながら、分譲先の確保や選定を慎重に進めていく必要がある。	・ルネサス社(東京本社)との協議(4/6) ・高知県と連携し、引き続き情報収集を行い、ルネサス従業員の雇用確保及び事業承継先の確保に努める。 ・高知労働局、高知県等と情報を共有し、ルネサス高知工場を始め協力企業事業主及び従業員に対する効果的な雇用支援策等を協議する。
ものづくり	◆香南市香我美町立地企業交流会 ・昨年の交流会において要望のあった陸上自衛隊高知駐屯地との交流会及び講演会「被災時における自衛隊の活動について」を開催した。	○懇談会の開催 年1回 ○昨年比で参加者数の増加 (H28実績:8企業14名)	○7/19懇談会を開催 ○8企業13名の参加	B	・行政や企業間の情報交換の場として懇談会を開催することができた。 また、自衛隊高知駐屯地で交流会を開催したことで自衛隊とも交流を深めることができた。	・新たな香南市立地企業に入会を勧めるとともに、平成30年度開催に向けて懇談会の内容を充実させ、参加者数の増加を図る。 ・旧香我美町時代の取組によるところがあることから、今後を見据え、香南市ものづくり会と連携を図り、合同の開催を視野に入れていく。

平成29年度の取組実績【商工業分野】

数値目標	目標値 (H29)	実績値 (H29)	全体の評価	目標値 (H31年度末)
製造品出荷額等	500億円以上	371億円※H28	B	500億円以上

H28年度 391億円 ※H27

(取組の総評)

目標値(製造品出荷額等)500億円に対し、実績値は371億円であったことから、取組評価はBとした。
 工業分野の戦略の柱となる「ものづくり基盤整備」については目標値を達成できたが、ルネサス高知工場の事業継承先の確保は依然厳しい状況である。また、「ものづくり」については、支援事業の利用実績が少ない等、目標値に達していない取組が多く、課題を残すこととなった。
 商業分野においては空き店舗の問題、事業継承者不足による廃業の増加が大きな要因であったことから、商工会内の「事業継承・空き店舗対応の調査研究にかかる委員会」主導のもと、先行して赤岡地区の空き店舗情報を収集したが、居住兼店舗である空き店舗が多いことや、浸水地区のため需要がないなどの問題があり、商業希望者に提供できる物件が集まらなかったなどの課題が浮き彫りとなっている。

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度)	実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
ものづくり	◆香南市ものづくり会 ・企業訪問3社	○懇談会の開催 年1回 ○昨年比で参加者数の増加 (H28実績:6企業6名)	○参加企業が少なかつたため未開催	C	・会員企業による共同受注の減少に伴い、企業間の情報交換が希薄化し、懇談会への参加が少なくなってきた。 ・会員の企業訪問を行い、雇用や経営状況、課題等を把握し、支援策に反映させる。 ・参加企業が少ない事をふまえ、香南市香我美町立地企業交流会と連携を図り、合同の開催を視野に入れていく。	・平成30年度開催に向けて交流会内容や開催時期等についてのアンケート調査を実施し、会員企業の参加者数増加を図る。 ・会員の企業訪問を行い、雇用や経営状況、課題等を把握し、支援策に反映させる。 ・参加企業が少ない事をふまえ、香南市香我美町立地企業交流会と連携を図り、合同の開催を視野に入れていく。
	◆香南市産業人材育成事業 ・補助金交付要綱の一部改正し、事業の拡充を図った。(改正内容:講師招聘による市内開催研修を追加) ・市ホームページへの掲載 ・香南市香我美町立地企業交流会で紹介(7/19) ・企業訪問により事業紹介を行った。(3社) ・県内3大学へ事業説明に訪問。(6/26、6/28、6/30)	○利用件数 5件 ※補助率1/2 上限200千円×5事業所	○利用実績 1件 (問い合わせ4件)	C	・企業の希望する人材育成研修等が公的機関以外が実施するものもあり、補助対象とならない。 ・広報不足の原因。	・要綱改正により補助対象事業を拡充し、事業の利用増加を図る。(公的団体以外の法人が実施する研修等を補助対象事業に追加) ・市のHP等の掲載に加え、対象業種の事業所への案内を実施するなどし、広報の拡大を行う。
	◆香南市未来人材育成奨学金返還助成事業 ・市ホームページへの掲載 ・県内3大学へ事業説明に訪問。(6/26、6/28、6/30) ・市内企業訪問の際、事業説明。	○利用件数 10件 ※補助率1/2 6,428円(自宅通学生の借入平均月額の(1/2)×12月×10人)	○利用実績 0件 (問い合わせ2件)	C	・対象業種を製造業に限定しているため、対象者が少ない。また、香南市に在住であることがハードルを高めている可能性がある。	・対象業種の拡充について、引き続き分野別部会で協議を行っていく。 ・大学だけでなく、高校生への事業説明を実施する。 ・香南市在住者以外の対応も含め、分野別部会で協議を行っていく。
	◆香南市インターンシップ支援事業 ・市ホームページへの掲載 ・香南市香我美町立地企業交流会で紹介(7/19) ・企業訪問により事業紹介を行った。(3社) ・県内3大学へ事業説明に訪問。(6/26、6/28、6/30)	○利用件数 10件 ※宿泊費定額補助 2,500円×延日数40日×10事業所	○利用実績 0件 (問い合わせ1件)	C	・現在、市内企業へのインターンシップは宿泊を要しないケースが多く、事業の利用に至っていない。 ・広報不足	・対象業種の拡大を他分野と検討し、事業の利用を図る。 ・県内の工業高校にも事業案内を行い、周知の拡大を図る。
商業支援	◆香南市緊急融資保証料補給金事業 ・4月1日付けで高知県信用保証協会と補給金交付契約書を締結 ・5月に第1回目の交付(2件2,087円) ・10月に第2回目の交付(2件6,459円) ・2月に第3回目の交付(5件10,762円)	○7年満期分 187,670円 ○10年満期分 167,500円	○利用実績 9件 19,308円	B	・高知県の緊急融資制度利用者が対象であり、対象業種の減少に伴い新規申請数が減っている。	・平成30年4月以降、保証割合が100%から80%に変更されるため、さらに減少することが見込まれる。 ・香南市金融懇談会等とおし、金融機関や商工会と連携を図り、緊急融資を必要としている対象者への案内強化を行っていく。
	◆魅力のある商業地・商店街づくり ・香南市商業部会パル実行委員会の開催(9/21、11/15) ・「香美パル」と「南国グルメ はしごでGO」を視察(10/28、11/7)	○香南市で街パルイベントを開催することを目指すために取組を開始する。	○商工会商業部会で「香南市パル実行委員会」を設置	A	・平成30年度 街パルイベントの開催に向けて実行委員会を立ち上げた。 (商工会 - 商業部会内に設立)	・平成30年秋の開催に向けて、具体的な日程や開催方法等を香南市パル実行委員会で協議し、開催をする。 ・魅力ある商業地づくりを目指し、香南市の加工品・成果物品等をPRするために、市内外のスーパーや量販店などで商業者自らが店頭販売を行い、生の声を調査する取組を実施。

平成29年度の取組実績【商工業分野】

数値目標	目標値 (H29)	実績値 (H29)	全体の評価	目標値 (H31年度末)
製造品出荷額等	500億円以上	371億円※H28	B	500億円以上

H28年度 391億円 ※H27

(取組の総評)

目標値(製造品出荷額等)500億円に対し、実績値は371億円であったことから、取組評価はBとした。
 工業分野の戦略の柱となる「ものづくり基盤整備」については目標値を達成できたが、ルネサス高知工場の事業継承先の確保は依然厳しい状況である。また、「ものづくり」については、支援事業の利用実績が少ない等、目標値に達していない取組が多く、課題を残すこととなった。
 商業分野においては空き店舗の問題、事業継承者不足による廃業の増加が大きな要因であったことから、商工会内の「事業継承・空き店舗対応の調査研究にかかる委員会」主導のもと、先行して赤岡地区の空き店舗情報を収集したが、居住兼店舗である空き店舗が多いことや、浸水地区のため需要がないなどの問題があり、商業希望者に提供できる物件が集まらなかったなどの課題が浮き彫りとなっている。

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度)	○実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
商業支援	◆空き店舗等の活用 ・商工会商業部会で「事業継承、空き店舗対策の調査研究にかかる委員会」を設置 ・市と商工会ホームページへの掲載(相互リンク済) ・事業継承、空き店舗対策の調査研究にかかる委員会の開催(7/6、9/20、11/20、1/22) ・チラシを作成し、金融機関や不動産会社へ配布	○利用件数 2件 ※県…補助率1/2、 上限1,000千円 市…補助率2/10、 上限400千円×2件	○利用実績 0件 (問い合わせ3件)	C	・創業希望者に提供できる空き店舗情報が少ない。 ・住宅と併設されているため、所有者が売却・賃与を希望しない空き店舗が多い。	・不動産会社や金融機関と連携し、情報収集を引き続き実施。加えて、空き店舗の情報を創業希望者に案内できるような体制づくりを目指す。 ・平成30年度に高知市が中心となり開設予定の「出店サポート情報バンク」と中小企業庁の施策マップに登録し、創業希望者への情報発信を行う。 ・平成31年度までにチャレンジショップを開設するために、分野別部会で協議することに加え、地域事業者や住民を対象としたワークショップを開催し、地域のサポート力を高め、新規事業者の受け入れ態勢を整える。
	◆創業支援 (H29年度 新) ・市と商工会ホームページへの掲載(相互リンク済) ・商工会と商工水産課に設置したワンストップ窓口で相談受付	○ワンストップ窓口(商工水産課と商工会に設置)への相談件数 23件	○相談件数 商工水産課… 0件 商工会 …32件	A	・創業希望者がワンストップ窓口で相談することにより、創業につなげることができた。 【H29年度 実績7件】 小売業 1、飲食業 2、卸売業 1 建設業 1、サービス業 2	・商工会主催の創業塾の周知を図り、創業希望者の掘り起こしを行う。 ・香南市金融懇談会をとおし、ワンストップ窓口の周知や商工会・金融機関との連携を進め、創業希望者の相談受け入れ体制の強化を引き続き図る。 ・創業希望者が安心して、長く事業ができるよう、地域でワークショップを開催し、受け入れ態勢を整える。
	◆創業支援利子補給金交付事業 ・市と商工会ホームページへの掲載(相互リンク済) ・チラシを作成し、金融機関や不動産会社へ配布	○利用件数 3件 ※100,000円×3件	○利用実績 2件 26,000円	A	・申請者の創業時の負担を軽減することができた。	・商工会や金融機関と連携し、創業希望者への制度案内を徹底する。

平成29年度の取組実績【観光分野】

(取組の総評)

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価	目標値(H31年度末)
観光施設入込客数	120万人以上	107.7万人※歴年 H28年度 104.7万人	B	120万人以上

平成29年度の取組実績について確認を行い、代表的な数値目標となる観光施設入込客数120万人以上に対し、実績値が107.7万人であったことから、全体の評価をBとした。
各戦略の柱の取組目標は、概ね計画どおり達成しており、平成28年度の観光施設入込客数104.7万人と比較すると「志国高知 幕末維新博」などの効果もあり、平成29年度は前年比103%であった。

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度)	実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
核となる観光拠点の 形成	<p>◆三宝山観光拠点化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地・建物所有者との無償賃借契約締結(H29～、5年間) 市職員、県職員によるワークショップの開催(4～6月、6回) 運営事業候補者の公募に向けた関係者間の協議、調整(7月～) 運営事業候補者の公募(10/10～11/10) →5事業者より応募、全ての事業者を運営事業候補者として選定(井上ファイナリー(株)、(有)北村興産、(株)ナイフアンドフォークカンパニー、合同会社高知カンパニージュニア、Farm Ayam) 香南市三宝山観光拠点化基本計画検討委員会の開催(11/28、1/10、2/1、2/14、3/7、3/22) 	○基本計画の策定	○基本計画の策定	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業コンセプトをはじめ、各ゾーンで行う事業内容及び建物の規模や面積などを示した施設計画、運営スキーム、目標設定(KPI)などを定めた「基本計画」を策定。 基本計画が策定されたことで、事業用地や道路などの共用部の敷地境界、また、事業者と香南市が負うリスク、役割分担などが一定明らかになり、事業を実行に移すための土台ができた。 	<p>平成30年度は、官民境界や敷地、施設計画、役割分割、ゾーニング、運営体制等の課題及び要件について、運営事業候補者との協議も含め精査を行ったうえで、実施計画を策定し、測量設計を実施する。 平成31年度には工事を行い、平成32年度のオープンを目指す。</p>
	<p>◆ヤ・シィパーク周辺地域の活性化</p> <p>①雇用状況 ・店舗スタッフの雇用7名(店長1名、パート3名、アルバイト3名) ※3月末現在</p> <p>②商品開発 ・アイスバーの一部価格改定(7/1～) ・アイス(カフェメニュー)、ランチメニューの開発 ・モーニングサービスの開始及びランチメニューの拡充(3/1～)</p> <p>③外販(販路開拓) (1)店舗 ・アンテナショップ『まるごと高知』他4ヶ所に納品 (2)カタログ ・百貨店「井筒屋」カタログ他5件に掲載 ・香南市ふるさと応援寄付金カタログへの掲載 (3)インターネット販売 ・オンラインショップ 販売代理店あすらば サイトリニユール H29/7/21⇒ストップ。(H30年2月) (4)その他 ・香南市農業複合経営拠点(6次産業化)事業関連で、ミカンピューレを試作し、60kgを納品 (5)商談 ・「高知空港ビル(株)」他3件と商談中 ・「平成29年度高知県産品商談会(5/30)」他4件に参加 (6)イベントへの出店・出品 ・マリンフェスティバルYASU(7/16)他8件で販売及び試食を実施</p> <p>④広報 (1)各種情報誌 ・『女性自身』他8件で掲載 (2)メディア ・NHK「鶴瓶の家族に乾杯」(5/15、5/19再放送)他1件で放送 ・高知県産業振興計画シンポジウム会場にてパネル、ギフトBOX等展示(5/16、5/30、6/8) ・facebookによる情報発信(21回)</p> <p>⑤講習・セミナー・研修・会議等 ・HACCP研修の受講(5/18～19 店長1名) ・商品力アップ相談会、栄養成分表示研修への参加 ・テナント会への出席(9回)</p> <p>⑥その他 ・アイスバー増産に伴う屋外冷凍庫の設置(6/末) ・龍馬バスポートへの参加(H29.4月～) ・やすらぎ市や土産物店等へのチラシ貼付</p> <p>◇ ヤ・シィパーク将来構想検討会の開催(6回) 県、市、(株)ヤ・シィ、(株)ものべみらい等で構成し、ヤ・シィパークの活性化に繋がる具体的な取組や施策等について検討を行った。</p>	○加工所兼店舗の売上高 51,022千円	○加工所兼店舗の売上高 16,356千円 (H30.3月末現在)	C	<ul style="list-style-type: none"> 店頭販売や外販活動を円滑に行うために必要な人材の確保が出来なかった。 (※ハローワークに求人を出し、人材確保を図る) 商品の宣伝不足 	<p>【ヤ・シィパークの地域観光拠点化】 ・ヤ・シィパーク活性化推進協議会を中心として、ポスト幕末維新博に向けた体験型観光資源の強化を図るとともに、観光拠点として必要な施設の整備内容等について検討し、整備を行う。</p> <p>【香南市地場産業活性化交流プラザの充実・強化】 ・(株)ものべみらいが(株)ヤ・シィに経営参画することで、直営店の経営見直しや空きテナントへの積極的な誘致を進め、集客アップと売上向上を図る。 ・施設内情報の明確化と適切な動線への誘導を促すため、案内表示看板を設置する。</p> <p>【manamanaの取組】 ・店頭販売や外販を円滑に行うために必要な人材を引き続き確保する。 (※ハローワークに求人を出し、4月より新たに2人を雇用し、現在8人態勢で運営) ・夏場の繁忙期や外販受注に備えて必要なアイスバーを確保するため、計画的な製造を行う。 (アイスバーストック目標:10,000本) ・地場産品を活用したランチメニューの拡充を行い、店頭での売上向上を図る。 (4/5～開始:8種類→30種類) ・イベントへの積極的な出店 (市主催イベントへの全出店など) ※維新博イベント 70本販売 (4/21) ※マックスライダー 57本販売 (4/22) ※どろめ祭り 120本販売 (4/29)</p> <p>・ホームページやSNSによる情報発信の充実を引き続き実施。</p>

平成29年度の取組実績【観光分野】

(取組の総評)

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価	目標値(H31年度末)
観光施設入込客数	120万人以上	107.7万人※歴年 H28年度 104.7万人	B	120万人以上

平成29年度の取組実績について確認を行い、代表的な数値目標となる観光施設入込客数120万人以上に対し、実績値が107.7万人であったことから、全体の評価をBとした。
各戦略の柱の取組目標は、概ね計画どおり達成しており、平成28年度の観光施設入込客数104.7万人と比較すると「志国高知 幕末維新博」などの効果もあり、平成29年度は前年比103%であった。

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度)	実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
広域観光の推進	<p>◆歴史を中心とした博覧会(志国高知 幕末維新博)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維新博補助金を活用し、絵金蔵では映像資料のリニューアルやタブレットを活用した他言語解説システムを導入。 ・創造広場「アクトランド」では、多言語対応HPの作成や周遊パンフレットのリニューアルを実施した。 ・市営バスの新路線開拓による観光客の周遊促進(10/1) ・県市共同のもと地域会場メインのPDCAシートを作成 ・通年にかけて、様々な企画展、展示を実施した 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵金蔵入館数 博覧会期間中12,000人 ○アクトランド入園数 博覧会期間中130,000人 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵金蔵入館数 12,980人 (昨年比150%) ○アクトランド入園数 83,790人 (昨年比160%) 計 96,770人 ※参考 龍馬歴史館他(有料8館) 15,996人(昨年比138%) 	<p>絵金蔵 A アクトランド B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた魅力的な企画展の開催、また周辺施設が開催するイベント等と連携した企画や特典設定を行うことによって大幅に集客数を伸ばすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度に整備した、多言語化HP等を活用し、平成30年度を通して外国人観光客への情報発信を行う。 ・平成30年度も年間を通して企画展やイベント等の開催を行うとともに、周遊観光施設等と連携したイベント等を開催し、集客数の維持を図る。
	<p>◆観光施設間の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設連絡会の開催(4/26,8/30,12/7,3/28) ・歴史のリアル化、クラスター化について協議 ・観光客向けの周遊アンケートを作成し、観光客の実態、需要を把握する仕組みを確立 ・連絡会の中で、観光施設の視察、見学を行うことで、施設間の情報共有を行った ・新たなサイクリングコースを検討、試走し、パンフレットを発行した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内各地域の観光施設等の相互交流や活動の活性化、来訪者へのサービス向上に努め、観光満足度を高める ○維新博を盛り上げ、市内観光・宿泊・飲食店・レンタサイクル利用者の入込数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サイクリングコースの新規作成：2コース 計6コース作成済 ○サイクルスタンドの設置 5台 4施設 ○周遊アンケートの作成 3施設で運用開始 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設連絡会の会員施設同士が連携を行いながら、新たなサイクリングコースの設定や周遊アンケート作成等の事業を順調に進めることができた。 ・維新博の効果で一部観光施設への入込客数は増加したが、その施設から周辺観光施設等へ周遊させることが課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年2月から開始予定の高知県観光キャンペーン「ポスト維新博」を見据え、自然体験等の磨き上げを行うと共に、その磨き上げた自然体験などに歴史や食を絡めた観光クラスター形成に取り組む。
	<p>◆歌舞伎でまちおこし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐絵金歌舞伎定期公演(入場者2,150人)及びワークショップ(参加者80人)【7月15日、16日開催】 ・伝統技能を中心とした公演会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 上方落語会(入場者285人)【7月2日開催】 大歌舞伎公演(入場者1,500人)【9月17日～19日開催】 土佐落語会(入場者260人)【1月8日開催】 香南市伝統芸能団体合同公演(入場者100人)【3月18日開催】 ・香南市民による歌舞伎を活用したコミュニティー事業 <ul style="list-style-type: none"> 小中学校生を対象とした出前授業(参加者24人)【5月実施】 高校生を対象とした出前授業(参加者17人)【9月実施】 鳴り物・歌舞伎役者等のワークショップ(参加者延べ406人)【4～3月 51回 実施】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークショップ参加者数 延べ360人 ○イベント参加者数 延べ3,960人 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークショップ参加者数 延べ406人 ○イベント参加者数 延べ4,375人 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講演によって県内外から多くのお客様に足を運んでいただけた。このことから「歌舞伎でまちおこし」「弁天座」ともに知名度が向上している。 ・地元住民向けの各種ワークショップ等を実施することで、地元で知名度も向上しており、今後更なる広がり期待ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客向けの体験メニュー開発のため、高知県在住の外国人に協力してもらい、歌舞伎体験のモニターツアーなどを実施する。 ・平成30年度も、歌舞伎公演や各種ワークショップ等の開催を継続することで、「歌舞伎でまちおこし」の更なる知名度向上を図る。
	<p>◆塩の道を活用した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体総会の開催(5/26) ・役員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 全体役員会(4/17,7/24,9/21,9/28,1/29) 香南支部役員会(5/26,8/18) ・高知県立大学との交流活動(9/1～9/3) ・第6回塩の道トレイルランニングレース2017開催(10/1) <ul style="list-style-type: none"> 25kmコース…参加者:182人 50kmコース…参加者:62人 ・第10回土佐塩の道30kmうおーくの開催(3/24) <ul style="list-style-type: none"> 参加者99人 	<ul style="list-style-type: none"> ○土佐塩の道の再整備及び保全を行い、歴史遺産又は文化遺産として次世代に継承するとともに、交流人口の拡大や地域の活性化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○トレイルランニングレース参加者 25kmコース…182人 50kmコース…62人 ○塩の道うおーく参加者99人 ○土佐塩の道 整備作業 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・トレイルランニングレース、30kmうおーくともに参加応募者が増えており、「土佐塩の道」の知名度が上がっていると考ええる。 ・自衛隊に協力を依頼し、塩の道の整備活動を順調に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トレイルランニングレース及び塩の道うおーくを引き続き開催する。 ・開催に先立ち、塩の道の未整備部分を整備する。 ・イベントのみではなく、整備作業への参加人数増加を図る。

平成29年度の取組実績【観光分野】

(取組の総評)

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価	目標値(H31年度末)
観光施設入込客数	120万人以上	107.7万人※歴年	B	120万人以上
H28年度 104.7万人				

平成29年度の取組実績について確認を行い、代表的な数値目標となる観光施設入込客数120万人以上に対し、実績値が107.7万人であったことから、全体の評価をBとした。
各戦略の柱の取組目標は、概ね計画どおり達成しており、平成28年度の観光施設入込客数104.7万人と比較すると「志国高知 幕末維新博」などの効果もあり、平成29年度は前年比103%であった。

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度)	実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
広域観光の推進	<p>◆サイクリング事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力ある新規サイクリングロードの設定 上級者向けコース(森林の風コース:羽尾方面)及び花鳥風月コース(物部川周辺)を追加し、サイクリング周遊マップ「まるごと体験ツール・香南」をリニューアル 快適なサイクリングのための環境整備 案内板・標識の整備 サイクリングターミナル・サイクルオアシス(スタンド・空気入れ整備)(アクトランド、道の駅やす、のいち動物公園) 市内主要観光施設スタンド設置 サイクリングを中心とした地域間交流を図るイベント開催 サイクルトレイン(12/10) マックスライダー(12/17) シクロクロス大会(1/28) 	○レンタサイクル貸出人数 1,800人	○レンタサイクル貸出人数 2,060人	A	<ul style="list-style-type: none"> サイクリング周遊マップの普及も進みレンタサイクル利用者の増加につながった。また、開催されるサイクルイベントの内容も充実し、県外からの参加者も増加し、交流人口の拡大が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> サイクリストが安全・快適に楽しめる環境の整備を進めるとともに、自転車の活用を促進できる人材を育成し、サイクルツーリズムに取り組む。
	<p>◆物部川エリア広域観光連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 物部川IDMO協議会総会(6/21) →H28事業報告、決算、H29事業計画、予算案の承認等 物部川IDMO協議会事務局の職員(2名)を新たに雇用(6/22~) 推進会議(10/11,11/15,12/13,1/17,2/21,3/14) 子どものココロの成長に焦点を当てた子育て家族層向けマーケティングコンセプトを策定 Webマーケティング環境の整備 ものべがわエリア フォトコンテスト(7/22~9/30) ミキハウス子育て総研㈱「ウェルカムファミリーの観光地・ものべがわ」認定(10/27) ※全国初認定 オフィシャルパートナー…のいち動物公園、創造広場「アクトランド」、道の駅やす／ヤ・シバーク、ザ・シックスタイアリーカほく ホテルアンドリゾート周辺施設群、西島園芸団地 ウェルカムサポーター…大釜荘、空港緑の広場トリム広場、道の駅南国風良里、龍河洞、泰山公園、ほっと平山 物部川フェスタ2017 ~あけよう!玉手箱~(11/4) メイン会場:物部川河川敷(来場者約1,000人) サブ会場:南国市商工会館(来場者約100人)・三宝山(来場者800人)・龍河洞(来場者約1,800人) 第69回関東高知県人大懇親会へ出展、観光PR(11/10、東武レバンテホテル東京) 物部川IDMO協議会研修(11/10~11) 「第37回カシオワールドオープンゴルフトーナメント」高知県観光案内所ブースにて広域観光案内(11/23・25) 3市観光協会と連携し、物部川広域観光パンフレットを作成(ものべがわエリア旅「とりせつ」10,000部) 第2回DMO全国フォーラム(H30/1/29、30) 高知県観光説明会(1/30大阪・2/6東京) 高知大学地域協働学部研修(2/11) 2つの日帰りプランを作成 全旅インバウンド商談会inこうち(2/13) 第13回国内観光活性化フォーラムinこうち出展(2/14) 高知県外国船オブショナルツアー商談会(2/20) 家族層向けモニターツアー(3/21) ものべがわづくりと森の玉手箱づくり 観光動態調査(KDDI/コロプラ)、ワークショップ開催(3/22) 	○主要観光施設入込数 665,200人	○主要観光施設入込数 745,319人	A	<ul style="list-style-type: none"> 物部川IDMO協議会の本格的活動開始年度とし、協議会を広域観光組織として、事務局運営体制を整備、人員配置し、事業者をはじめ、観光協会、商工会、地域関係者等との間における広域観光組織として活動の幅を広げた。 平成29年度当初より検討されていた「協議会事務局の法人課及び旅行業の事業所登録とそれに伴う旅行商品の販売」については協議の結果、平成30年度以降に再検討するという課題が残っている。 (商品開発に伴うモニターツアーの開催については実施済) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の協議会の事業は、①ターゲットの拡大(これまでの子育て家族層に加え、インバウンド層に対する事業追加)②周遊促進を目的とする具体的事業の遂行③6次化関連の事業への着手の主要3本柱と位置づけ、平成29年度の「創業期」フェーズから、「実践」フェーズに移していくものとする。 協議会事業の法人化・旅行業の事業所登録を継続して検討し、旅行商品のセールス等現状可能な範囲での事業を行う。 HPやSNSを積極的に活用し、継続的に情報発信を行い、インターネットと現場を連動させて来訪者属性等の調査分析に繋げる。

平成29年度の取組実績【観光分野】

(取組の総評)

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価	目標値(H31年度末)
観光施設入込客数	120万人以上	107.7万人※歴年	B	120万人以上
H28年度 104.7万人				

平成29年度の取組実績について確認を行い、代表的な数値目標となる観光施設入込客数120万人以上に対し、実績値が107.7万人であったことから、全体の評価をBとした。
各戦略の柱の取組目標は、概ね計画どおり達成しており、平成28年度の観光施設入込客数104.7万人と比較すると「志国高知 幕末維新博」などの効果もあり、平成29年度は前年比103%であった。

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度)	実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
広域観光の推進	◆市民と地域資源の総力を結集したビジネス支援事業 ・通年カタログ10,000部配布 ・通年カタログ10,000部発行(3/27) 登録業者数42社、登録品目数 191品 ・サマーフェアチラシ5,000部発行(6/14) ・にらプロ(6/12,7/10,8/16,9/11,10/13,11/14,12/7,1/24,2/21) ・こつなん健康チャレンジポイント実績(10/1~3/31 146件575枚) ・広報活動 全国観光フォーラムにて特産品販売とカタログ受付・配布(2/14) 高知駅新駅舎オープン10周年記念イベントにて特産品販売とカタログ配布(3/3)	○カタログ販売額 20,000千円	○カタログ販売額 71,520千円 【内訳】 ふるさと 68,611千円 地場促 3,077千円	A	・ふるさと納税の販売額を大幅に伸ばすことができたため、販売目標額対比357%となった。 ・年間を通して、新商品の開発をすすめ、香南市の特産品を県内外に広くPRし、登録事業者数や登録品目数の増加に取り組む。	
	◆地域まるごと旅行商品の開発販売及びブランドオペレーター機能構築事業 ・新聞ばっく教室 88名(4/21) ・ニラ収穫体験モニター(最小催行人数を下回り中止) ・羽尾暮らし体験モニター(7/20,8/19,12/23) 42名参加 ・第6回土佐塩の満ちトレイルランニングレース2017 (10/1) 25km : 182名 50km : 62名参加 ※前日 プリーフィング開催 ・土佐の観光創生塾参加(10/12 ,11/16 ,2/28) ・山北満喫体験モニター(11/18) 14名参加 ・サイクルトレインポタリング(12/10) 13名参加 ・カッティングボード体験モニター(2/7開催) 10名参加 ・国内船モニターツアー、意見交換会参加(11/12) ・第10回土佐塩の道30kmツアー(3/24) 99名参加 ・KONAN Photorally 5名参加	○観光客入込数 70万人 ※歴年	○観光客入込数 62万人 ※歴年	B	・年間を通して市内の観光素材や伝統文化、香南市案内人会のガイドを活かした体験モニターなどを実施したこと、様々な地域で地元住民と観光客が接する機会を設けることができ、地域の活性化に繋がることができた。	・高知県観光説明会(商談会)等に参加し、旅行会社等へのセールスを行い、香南市の知名度向上やPRを行う。(H30年度 6回) ・平成30年度においても、各観光施設や地元住民などと連携した体験モニターツアー等を行い、香南市の魅力発信や集客数拡大を図る。
人材の育成	◆まちの案内人会 ・太平洋パノラマトロッコへ案内人として参加(4/9,4/23,5/5) ・高知県観光ガイド連絡協議会に登録、総会(5/18)参加 ・香南市案内人会総会(6/20) ・高校生新聞部案内(8/10) ・県立大学生塩の道ガイド(9/1) ・大栃中学ガイド(9/15) ・物部川フェスタシャトルバス内で案内人として参加(11/4) ・外部研修とマニュアル作成によるガイドスキルの底上げ、統一化(12/6) ・サイクルトレイン手結内港案内(12/10) ・高知大学協働学部手結内港案内(2/11)	○案内人会会員のガイド技術をスキルアップし、観光ガイド受入可能人数を増加させる ○県内他観光ガイド組織との連携を図る	○会員22名中 ⇒案内可能人数 6名 ○年間受入回数 16回	A	・研修、マニュアル作成を行うことで、会員のスキルアップと案内会の案内可能人数を底上げできた。 ・高知県観光ガイド連絡協議会に登録し、外部へのPRと技術連携につながった。	・高齢化による会員の減少に歯止めをかけ、新たな会員及び案内可能人数の増加を引き続き図る。 ・平成30年度中に案内人を2名増やし24名とし、案内可能人数の増加を図る。
国際観光の推進	◆外国人観光客の受入体制づくり ・外国船観光客受入準備のための新港への出店(6/29,7/3,7/11,12/24) ・アクトランド外国船オブショナルツアー見学(8/19) ・H29年度邦船クルーズモニターツアー(11/12) ・絵金蔵外国人団体客受入(12/24,13人) ・外国客船OP商談会参加(2/20) ・のいち動物公園に多言語周遊観光看板設置(H30.3) ・絵金蔵前トイレの使用法説明板設置(H30.3) ・絵金蔵多言語対応映像システム導入(H30.3)	○H30年度新港出店登録のための事前出店調査 5回	○外国船観光客受入準備のための新港出店調査 4回	B	・観光協会と市と連携して、OPツアー商談会に参加するなど、ツアー造成に向けた取組を行っている。 ・新港出店は現在仮登録中のため、実績(出店召集)が少なかった。	・高知新港協会へ会員登録を行い、出展回数の増加を図るとともに、香南市がPRしたい船舶、国籍等を事前にターゲットングし、効果的な出店、招致活動を行う。 ・外国人の興味等をリサーチするために、周辺の大学等の留学生を招致し、モニターツアーを行う。

平成29年度の実績【住宅分野】

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価	目標値(H31年度末)
			—	

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度)	実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
住環境の整備	<p>◆住宅リフォーム制度</p> <p>・市内に所有し、居住する個人住宅を対象に、住宅のリフォーム工事を行った場合に、その工事費用の20%(上限20万円)を補助。</p>	○利用件数 75件 (予算額15,000千円)	○利用件数 89件 (交付額14,092千円) ・廃止 2件(271千円) ・減額 7件(92千円) ・取下げ 8件(1,197千円)等 ⇒ 補助金最終残額 908千円	A	<p>・平成29年度は補助額を15,000千円に拡大し、2週間(6/12~6/23)の受付期間を設け募集した結果、6/23日時点で、90件14,528千円受付。 申請予定者を決定した9/30日には、補助金残額が無い状態であったが、実績額の減額、取下げ、廃止がその後発生し、最終段階では908千円の残額が生じた。 取下げを早く申し出てもらう取組が必要。</p>	<p>・平成30年度は本申請の期日をもつて、取下げを早く申し出てもらい、次の希望者に補助金を利用してもらうよう取組む。</p>
市営住宅の整備	<p>◆市営住宅の整備</p> <p>・生活環境の保全、及び公衆衛生の向上に向け、単独処理浄化槽から合併浄化槽への変更と、福祉対応型改修工事として、手すりを新設</p>	○浄化槽等設置工事 30戸	○浄化槽等設置工事 14戸	C	<p>・国庫補助金の変動により、希望額に届かなかったことが大きな要因だが、工事を行う際、居住者との工程協議により施工時期を長期で確保するため、件数が制限され、目標値には至らなかった。</p>	<p>・過去の結果をふまえると目標数値をクリアすることは難しいのが実態。 国費補助金額の増額を要求するとともに少しでも施工箇所を増加させ、住民の安心・安全を確保し、目標値に近づける。</p>
住宅の耐震化	<p>◆住宅耐震診断事業</p> <p>・木造住宅…診断費用の自己負担3千円 ・非木造住宅…3万円補助</p>	○利用件数 120件	○利用件数 94件	B	<p>平成28年度は熊本地震の影響などから問い合わせも多く127件の実績があったが、平成29年度は97件と減少傾向にあった。各地の震災後、問い合わせが多くなる傾向があるが、震災前の対策として取り組んでいただけるように周知していくことが課題。</p>	<p>・住宅耐震化の重要性を広報や自主防災組織連絡会、ふれあい祭り等で引き続き啓発を行う。</p>
	<p>◆住宅耐震改修費補助事業</p> <p>・香南市「住宅耐震診断事業」による耐震診断を受診し、総合評点数が1.0未満と診断された住宅に対して、設計及び改修費用を補助。 (設計1棟あたり上限305千円、改修1棟あたり上限1,000千円)</p>	○利用件数 改修設計90件 改修工事90件	○利用件数 改修設計92件 改修工事89件	B	<p>・設計・工事とも前年度より件数は増加している。 設計は平成29年度から補助金額を10万円増額した結果、目標を達成している。 制度の周知が課題。</p>	<p>・広報等で周知や診断済みで設計・工事未実施の住宅について戸別訪問を行い、住宅耐震事業を推進する。</p>
	<p>◆コンクリートブロック塀耐震対策事業</p> <p>・避難路等に面している危険性の高いコンクリートブロック塀等を撤去したり、安全なフェンスなどに造り替える経費に対して補助。(上限205千円)</p>	○利用件数 15件	○利用件数 14件	B	<p>・申請件数は毎年増加しているが、制度の周知が課題。</p>	<p>・引き続き広報等で周知を行う。 ・老朽住宅除去の相談があった際、危険なブロック塀もある場合には所有者へ制度の説明を行い、耐震化を進める。</p>

平成29年度の実績【住宅分野】

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価	目標値(H31年度末)
			—	

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度)	○実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
空き家対策	◆老朽住宅等除却事業 ・避難路等に面している又は延焼等により近隣住宅に影響する場所に存在する著しく老朽化した住宅等の除却に要する経費に対して補助。(補助率80%、上限1,645千円)	○利用件数 20件	○利用件数 20件	A	・事業を順調に進めることができた。	・問合せは多く、住民のニーズは大きい。 ・すでに老朽が進んでいる住宅の所有者には積極的に補助金制度の説明を行い、撤去を推進する。また広報等でも周知を行う。
	◆移住定住促進空き家活用住宅事業(国県財源措置あり) ・香我美町の東川・西川地区と夜須町の北部地区の中山間地域をモデル地域の空き家を市が10年間借り上げ、移住希望者向けにお試し住宅や移住者支援住宅として貸し出すためのハード整備	○お試し住宅の整備 1棟 ○移住者支援住宅の整備 1棟予定(～H29)	○お試し住宅の整備 1棟 ○移住者支援住宅の整備 0棟(H29繰越)	C	モデル地域における市が借り上げる空き家活用として、お試し住宅1棟の整備が完了。 移住者支援住宅としては、個人所有の空き家を活用する「空き家バンク」を受入住宅の軸にシフトしたため、整備に至らなかった。	・平成30年度は、移住者施策として市が直接行う空き家活用事業は実施しない。 ・平成29年度に整備したお試し住宅の利用促進と、移住者の受入のための住宅として需要の多い「空き家バンク」の登録物件数の増に取り組む。
	◆ウエルカム移住・定住促進事業費補助金(市単独事業) ・移住者が中山間モデル地域(香我美町東川及び西川地区並びに夜須町添地、夜須川、細川、国光及び羽尾地区)の空き家を購入して解体し、自らの居住のための住宅を建設した場合に係る経費に対して補助 ・上記移住者が引越し荷物の運搬を業者に依頼して行った場合に係る経費に対して補助	○住宅取得支援補助 (補助率4/5、上限1,600千円) 2件 ○引越支援補助 (補助率75%、上限100千円) 3件	○住宅取得支援補助 0件 (住宅取得の相談0件) ○引越支援補助 0件 (引越支援の相談1件)	C	補助金活用実績が生まれなかった理由は、市民や移住者希望者に対してわかりやすい支援策となっていなかったことがあげられる。また、実態に沿ったものではなく、使い易い補助金となっていなかったため。	・モデル地域限定の本補助事業は、平成30年4月1日付けで廃止。 ・平成30年度からの住宅支援は、「空き家バンク」利用時の支援策である。既存の「空き家改修事業費等補助金」を拡大、また、引越支援は、香南市へのUターン者と二段階移住(県外→高知市→香南市へ移住)者に対する引越支援補助として新設する。
	◆空き家バンク事業 ・香南市全域を対象とし、移住希望者にスムーズな住宅提供ができるよう空き家バンク登録への呼びかけや登録時の手続きを支援 ・空き家バンク登録物件で承諾を得た空き家(6件)には「香南住む～ず」のマークを付け、地域住民とも情報共有ができるようにした	○空き家バンク登録件数 5件	○空き家バンク登録件数 15件(うち売買4件、賃貸3件成約済)	A	平成29年度に創設した空き家バンク登録物件に係る支援策(補助金)と合わせ、バンク登録を広報(広報誌やチラシ、地域への呼びかけ)、また登録時の事務手続きの支援を行ったことで物件数の増につながった。 物件数以上に空き家バンク利用登録者数も増加(空き家バンク利用登録者:H28年度1名→H29年度18名)しているため、マッチングに向けて更なる空き家の掘り起こしが必要である。	まちづくり協議会をはじめとし、地域住民や不動産業者等、民間との協力・連携を強化し、空き家情報の収集と市内外に向けた情報発信に取り組む。

平成29年度の実績【住宅分野】

数値目標	目標値(H29)	実績値(H29)	全体の評価	目標値(H31年度末)
			—	

戦略の柱	具体的な取組	目標値に対する実績(成果等)		総括		今後の取組(対策、改善)
		○指標及び目標値 (平成29年度)	実績値 (平成29年度末)	数値目標に対する 客観的評価	原因及び課題(分析)	
空き家対策	◆空き家改修事業費等補助金 (空き家改修事業:国県財源措置あり、荷物処分等支援事業:一部県財源措置あり)					
	・市の空き家バンクに登録し、貸借や売買の相手が決まった場合、空き家の所有者または空き家を使用する移住者に対し、耐震化を必須として、トイレの水洗化等住宅性能の向上のためのリフォームに要する費用や、荷物整理処分費を補助	○空き家改修事業 (補助率10/10、 上限1,824千円) 3件 ○荷物処分等支援事業 (補助率1/2、県外移住者 上限500千円、県内市外 移住者上限250千円) 3件	○空き家改修事業 1件 (相談件数3件 うち H29実施 1件 H30繰越で2件実施) ○荷物処分等支援事業 2件	C	両事業ともに空き家利用者決定後の申請であることからマッチングまでに時間を要し、年度内の補助活用至らなかった。 特に空き家改修事業においては、県が定めた基準値(1.0)以上の耐震化が図られていることが前提とされており、家の規模によっては自己負担が大きくなるため所有者にとっては補助金活用のハードルが少し高くなっているように思われる。	空き家改修事業においては、耐震化を前提とした既存の補助事業を残しつつ、すでに耐震化の図られている登録物件については、軽微な修繕(20万円以下で居住に際し支障となる箇所の取替、朽ちた畳の交換、網戸の設置等)ができるよう支援策を拡大した。 ・(内容) 補助率10/10以内、 県外移住者上限200千円、 県内市外移住者上限100千円